

スローガン

情熱と感動

基本方針

かつてない情熱と圧倒的な行動力で

地域をリードする

1.はじめに

800 有余年の歴史を有する浦安は、陸の孤島と言われておりましたが、埋立事業や交通網の整備により、漁村としての名残を残しつつも、先人たちのまちを想う選択と移住者により次第に都市のベッドタウンとして目覚ましい成長と発展を遂げてまいりました。

1981 年 4 月浦安町は更なるまちの繁栄を願い、市制を施行し『浦安市』となりました。その年の 8 月 2 日に明るい豊かな社会の実現を理想とし、責任感と情熱をもった青年有志により、全国で 690 番目の青年会議所として浦安青年会議所が誕生いたしました。『修練』『奉仕』『友情』の三信条のもと、明るい豊かな社会の実現を目指し、浦安を想い、浦安のために邁進してきた浦安青年会議所は、2025 年に 45 周年を迎えます。昭和・平成・令和と激変する社会情勢のなかで、先輩諸兄姉は地域問題や課題に本気で向き合い、この地域を『より良く』するために議論をし、心ひとつに力を合わせ、今日までの浦安青年会議所の礎を築いてくださりました。

私が、浦安青年会議所に入会したのは 2014 年のことです。この決断が大きな人生の分岐点だと思っています。幼少期から高校 3 年生までは、学校で授業を受けている以外は全て野球に捧げてきました。幼少期の夢はプロ野球選手と豪語し、朝から晩まで毎日、野球にのめり込んでいました。浦安市内の中学校を卒業後、甲子園に出場したいという強い思いから、山梨県の甲子園常連校に進学し、親元を離れ寮生活を送りました。結果的には甲子園に出場できませんでしたが、仲間と共に 1 つの目標に向かい確固たる信念と情熱を持ち、辛く、苦しい練習も励ましあい、時には厳しい言葉で鼓舞し、仲間と共に乗り越えてきた青春は今でも大きな財産です。そのような野球ばかりの日々を過ごしていた私に、様々な経験や学び、社会人としての基礎を叩き込んでくれたのがこの浦安青年会議所です。

特に思い入れが深いのは、2016年にわんぱく相撲実行委員会の委員長の職をいただいたことです。初委員長ということもあり、右も左もわからないながらも、わんぱく相撲浦安場所成功に向けて、事業構築を進めていました。様々な困難が立ちはだかりましたが、多くのメンバーが手を差し伸べてくれたおかげで、なんとか大会当日を迎えることができました。相撲の取組が始まると、子どもたちの真剣な顔や、負けた悔しさを隠しきれず大泣きする姿を見て、私自身も達成感や無事に開催できたという安堵から涙が止まらなくなっていました。私自身、かつてない情熱を注いだわんぱく相撲を通して、青年会議所活動の意義や目的をこの時初めて実感することができました。それと同時に、情熱を持って取組むことで、様々な人を巻き込むことができるということを気付かせてくれました。それから、青年会議所活動で様々な役職を経験し、多くの成長の機会をいただきました。しかし、自分を育ててくれたこの浦安青年会議所は現在会員数の減少、人財の成長不足などもあり危機的状況です。このような状況だからこそ、私が先頭に立ってメンバーに背中を見せ、大好きな浦安のため、そしてこの浦安青年会議所のために、『2025年度の舵取りは私しかない』という強い気持ちと覚悟で、メンバーと共に、この難局を乗り越えていきます。

私が掲げた『情熱と感動』のスローガンには、困難を乗り越えるには能力や経験ではなく、圧倒的な情熱だという私の強い思いを込めました。我々メンバーが全ての事業や活動に対して、かつてない情熱を持って地域問題や課題に本気で向き合い、悩み、議論して生まれた事業は、関わる全ての人々の心を動かし、より良い変化をもたらすための力となりやがて運動になっていくものだと確信しております。

青年会議所は社会により良い変化をもたらすことが使命であります。社会に変化を与えることは生半可な気持ちではできません。本業あつての青年会議所活動が大前提ですが、その言葉に理由を付けて片手間で青年会議所活動が行えるほど、決して甘くありません。本業や家族との時間を大切にしながら、情熱を持って活動し、議論を重ね、本気で青年会議所活動と正面から向き合うことが自己の成長にも繋がります。それが出来て初めて社会により良い変化をもたらすことができる第一歩が踏み出せます。青年会議所の名刺とバッジがあればどんな人とも繋がれる。このような団体にせつかく所属しているのだからこそ、現状に満足せず様々なことに果敢に挑戦し、数ある機会を自分の手でしっかりと掴み取って欲しいと強く思います。そこで得た、経験や学びは一生涯の自分自身の宝となり、社業やこれからの人生を豊かにしていくものだと思っております。

我々の活動地域である浦安市のまちづくりは、行政が主導し棲み分けされたものから、行政、地域団体、企業、地域コミュニティーなどと手を取り合い連携していくものへと、変化していかなくてはなりません。2024年6月に8年ぶりとなる、浦安三社例大祭が行われ、浦安に住む人やお祭りを機に浦安へ戻ってきた人、浦安市外の人、様々な方々が集まり、街中が熱気を帯び、心が躍る、浦安の伝統を肌で感じてもらうきっかけとなりました。浦安への熱き愛着を再認識したお祭りだったと、私自身感じております。しかしながら、浦安全体が一体となって熱を帯びていたかということ、そうではない私は思います。元町・中町・新町と棲み分けされてきた歴史がある中で、地域性・歴史・文化が同じ市内の中でも違います。各地区のバックグラウンドと地域性を尊重しながらも浦安全体が一体となり、浦安に住む全ての人々がふるさとを感じてもらう機会が大切だと考えております。

歴史や文化を大切にしながらも地域性を越えて一体となることこそが浦安アイデンティティーだと私

は思います。浦安らしさを大切に、私たちもまちづくりに携わっていかなくてはならないと思っています。

目に見える豊かさだけでなく、本質的な人との繋がりやまちとしての価値を高め、浦安らしさを追い求めてまいります。我々、浦安青年会議所が主体となって、今未来の浦安のために、何ができるのかを本気で考え、かつてない情熱を持ち率先して行動を起こし、多くの人々を巻き込みながら、光り輝く浦安の未来を切り拓いていかなくてはなりません。

2.浦安らしさの追求に情熱を注ぐ

【郷土愛のその先を目指して】

1971年には漁業権を全面放棄して第2期海面埋め立て事業が行われた結果、総面積は1948年の4.43平方キロメートルの約4倍の18.79平方キロメートルに拡大しました。そして、地下鉄東西線やJR京葉線が開通したことで急速に都市化が進み、多くの移住者が新町・中町エリアと呼ばれる地域に移り住んできました。第1期埋立地区開発から40年が経過する地区が出てきているとともに、第2期埋立地区での新規開発も概ね終盤に差し掛かるなど、まちがこれまでの『発展期』から『成熟期』へと移行しており、ハード面・ソフト面共にリノベーションを図る時期に差し掛かってきていると感じます。浦安は交通の利便性から都心のベッドタウンとして、成長を遂げてきました。今後は、交通アクセスの利便性やベッドタウンとしての環境だけでは、まちの成長・発展はこれ以上望めないと感じています。なぜならば、コロナ禍で普及したりリモートワーク等、働き方の変化を背景に、千葉県内・関東圏内の各自治体でも大規模な再開発がいたるところで行われ、各々の生活様式に合わせて居住先の選択肢が広がってきております。

これからは浦安に『住んでみたい』、『住み続けたい』、『戻ってきたい』と思ってもらえるまちであるために、これまで以上に文化・歴史・地域資源から浦安らしさを活かし、より郷土愛を深めていく必要があります。現在、浦安市では歴史や伝統文化の保存、継承にも力を入れています。歴史や文化により生み出された様々な価値観、風情、地域資源から現在の浦安があり、それこそが魅力や価値であり、まちを更に発展させる大きな力となります。まちの魅力や価値を再認識し、さらに他の地域の歴史や異文化にも触れることで、広い視座や視点で浦安を俯瞰的にみられるようになると思います。俯瞰でみるとまちの本当の良さや課題に気付くことも、郷土愛を育むにあたりとても大切なことです。

まちへの矜持の形成と、地域を良くしていこうとする圧倒的な当事者意識が市民に芽生えることで、浦安はこれまで以上に、活気と魅力が溢れるまちに変わっていきます。

【第58回千葉ブロック大会・浦安大会 主管 LOM として】

1967年会員大会の発足時点の開催目的は、青年会議所運動に関する意識の高揚を図ることにありました。公益社団法人化した日本JCが公益性をもった大会を構築するために、2013年度より会員の表記が無くなり、ブロック大会の名称に変更され、ブロック大会自体が1つの青年会議所運動であるという位置付けになりました。したがって、JC会員のためだけでなく、ブロック大会は広く一般市民の利益となるよう、開催地域の活性化なども目的に盛り込み開催されてきました。これまで、千葉県内では57回開催されている中で、浦安青年会議所も過去、1992年、2010年と主管LOMとして千葉ブロック

協議会と共に大会をつくりあげました。私は 2024 年度に公益社団法人日本青年会議所 関東地区千葉ブロック協議会 ブロック大会委員会 委員長として出向いたしました。この経験を経て、ブロック大会の可能性や主管することによって得られる経験や成長といった『益』、そして地域の一体感や魅力を肌で感じてまいりました。先に述べた通り、浦安青年会議所は 2025 年に 45 周年を迎え、次の 50 周年を見据えて、激変する社会情勢と共に社会の変化に柔軟に対応することが必要だと考えております。その変化に対応するためには、浦安青年会議所がブロック大会を主管し、様々な経験から学びを得て、価値のある運動を持続的に展開する必要があると考えます。そうした経験や大会を主管することで得られたネットワークを新たな礎とし、次の 50 周年、100 周年と恒久的に運動を展開できる組織基盤を構築します。そして、浦安の魅力や価値を浦安の外に発信することで、地域の外にも輪が広がり、まちへの関心を高め波及的效果として地域経済を潤します。浦安に集う人々との有機的な結びつきから浦安らしさを確立し、発展し続けられるまち『浦安』へと昇華させてまいります。

3.人財育成に情熱を注ぐ

【子どもたちに強さとしなやかさを育む】

様々な社会問題や地域課題は時代の流れと共に刻々と変化し、私たちを取り巻く環境も目まぐるしく移り変わります。私たち大人も、生きていく中でたくさんの困難や失敗など、数々の辛い経験があり、それらの逆境を乗り越え、更に高い壁と挑戦してきたからこそ今日があると思っております。今後さらに、経済不安や先行き不透明な時代だからこそ、未来を担う子どもたちには、これから様々な壁が立ちあがるように待っていると思います。そうした困難にも立ち向かい、失敗をしてもめげずに何度も立ちあがり、糧にできる強さとしなやかさを子どもたちに育む必要があります。真剣勝負を通じて心の成長を育む機会として、2025 年度も第 37 回わんぱく相撲浦安場所を開催いたします。参加した子どもたちには、どんな相手にも立ち向かい、決して逃げることなく、真剣勝負に情熱を注ぎ勝った喜びや負けた悔しさを取組を通して実体験してもらいます。相撲を通じての礼節や 1 対 1 の真剣勝負から相手と自分自身と向き合い、様々な感情をコントロールしながら勝負に挑むことが、心の成長への一歩だと考えております。強さとしなやかさとは、力や身体の強さではありません。生きていく中で様々な体験や経験が、心を強くし、どんな困難にも立ち向かい打ち勝つ力と、逆境にも屈することなく柔軟に対応できる心を育みます。子どもたちはこれから、中学、高校、大学、就職と様々なステージで内面的な強さを磨くことで、自身の武器となり、生きる力となります。しかしながら 1 日だけ行ったわんぱく相撲では、思い描く子どもたちの心の成長に結びつかないと思います。

本年度は成長のきっかけ作りとしてわんぱく相撲を位置づけ、保護者の皆さまにも御協力をいただき、家庭の中で子どもたちに本大会の意義や目的を伝えていただきます。大会当日だけではなく、家庭の中でも我々の想いを伝えていただくことで、本事業を通して、子どもたちに心の強さとしなやかさを育みます。わんぱく相撲浦安場所は、歴史ある大会となり市民の認知度も高く、参加者も一定数の子どもと保護者が集まってもらえる場となりました。さらに青少年健全育成の場としてご理解をいただき、企業や市内団体から協賛金を頂戴できるほどに成長しました。浦安青年会議所としても多くの人を巻き込みながら青少年健全育成が行える事業として位置づけ、事業を展開してまいります。

【主権者意識の向上を】

日々社会情勢は変化し、ロシアのウクライナ侵攻、紛争、歴史的な円安、地球温暖化など、ありとあらゆるジャンルの問題や課題が私たちに襲い掛かります。しかしながら、いつの時代もこの難局に果敢に立ち向かい問題や課題を解決に導き、社会をより豊かに、より良くしていく 1 つの方法が政治だと思っています。2015 年公職選挙法が改正され、選挙権が 20 歳から 18 歳に引き下げられましたが、2021 年令和初の国政選挙の 10 代、20 代の投票率は 39%前後です。60 代の 71%と比べると低いことがわかります。その理由の 1 つとして無関心があげられています。ある調査によると、無関心には様々な要因があるとされています。最も多い理由が選挙や政治についてよくわからないという結果が出ています。まずは、自らが暮らす地域の問題や課題が今の前にあるという理解と、政治で課題を一部解決出来るということを知り、学ぶ機会が必要です。自分が行動を起こさなくても、誰かがやってくれるものと捉えるのではなく、自分事として捉え、社会への参加意識を高めるために主権者教育を行い、まちの未来は自分たちが決めるという意識を高めていかなければなりません。

しかしながら、ただ投票率をあげればいいものではありません。責任を持って判断し、決定するためには本質を知ることが必要不可欠です。主権者としての意識が向上し、まちを想い主体的に考える若者が 1 人でも多く生まれることで、浦安がさらに繁栄していくものだと思います。

そして、より良い浦安の実現に向けて、2025 年度地域のリーダーを決める選挙が行われる予定です。

地域課題、社会課題が山積しておりますが、市民がまちを想い、自らの意思でまちがより良くなるための選択をしなくてはなりません。当事者意識を持ち、まちの未来に意思表示できる人財を一人でも多く育む機会を、我々青年会議所が担うことで、地域社会を豊かにしていくことができると確信しております。

4.情熱を持った組織運営

浦安青年会議所を運営していくにあたり、最も重要な役割を担うのが総務委員会だと私は思います。

青年会議所という名前の通り、我々は会議体であり、浦安青年会議所が行う活動の全てはこの会議で議論され、磨かれ、理事会や総会で採決をとり、決定したものを実施することで運動となっています。その諸会議を最も効果的に進行していかなければ、メンバーの時間や労力、そして本来議論しなければならないことが議論出来ず、青年会議所運動が最大限行えないと考えます。諸会議を行うために、上程された議案や資料を規則やコンプライアンス等に抵触していないか、体裁面を含め指導を行うことで、会議の質も高まると考えております。規則審査、財政審査、コンプライアンス審査など、公益社団法人として法令を遵守した運営に努め、メンバーにその重要性を理解してもらうことも大切な役割です。

2024 年度にはホームページもリニューアルしましたが、2025 年度も引き続き SNS に力を入れ、我々が行う活動や情報を発信し続けることで、さらに認知度を高めます。また、地域に数ある団体との差別化を図るにあたり、『浦安青年会議所』というブランドを高める広報活動は必要不可欠です。新鮮な情報を発信し続けることで活動に広がりを持たせ、多くの人を巻き込みながら運動を展開していかなくてはなりません。

情報というのは鮮度が命になります。事業や例会や案内などいち早く SNS やホームページに掲載で

きるように、総務委員会主導で担当委員会などに働きかけ、情報発信を大切にしてほしいと考えております。そうした小さなことの積み重ねから浦安青年会議所のファンが増え、浦安青年会議所を地域に根付かせる第一歩となります。

そして、最高意思決定機関でもある総会の開催は定款に記載がある通り、必ず行わなくてはなりません。総会で会の方向性を全メンバーで考え、自らの意思を示し、浦安青年会議所が進むべき道をメンバー全員で決めてまいります。時代の流れとともに、会議の進め方や資料作成の手法は、より効率的になってきていますが、会議体としてこれまでの良いものは継承し、時代の流れに即した運営を進めていかななくてはなりません。浦安青年会議所の秩序を保つうえで、必要不可欠になるのはルールです。ルールとは、約束だと私は思います。メンバーは、仕事の時間、プライベートの時間、家族との時間を調整し、参加しています。このルールを守らない人が、ひとりでもいるだけで組織全体の意欲が下がり、個々のモチベーションも下げる悪循環に繋がります。ルールは絶対に守り組織を運営していかななくてはならないという強い情熱と想いが、メンバー1人ひとりになくてならないと思います。時間は皆に平等にあり、ルールを守るということは、能力とは関係なく、その人自身の意識の問題です。地域や社会を語る前に、自分自身を律することを肝に銘じなくてはなりません。当たり前のことを当たり前に行うことで、信頼を育んでいきます。信頼関係から成り立つ組織だからこそ、真剣な議論からかつてない企画やアイデアが生まれてくるものだと思います。この会議を起点に、我々浦安青年会議所の情熱もった事業が市民を巻き込み、より良い社会の実現に向けた運動へと繋がります。

5.情熱を伝播し多くの仲間を

青年会議所は20歳から40歳までと、活動できる期間が限られております。私たちが青年会議所運動を展開していくためには、この活動や運動に共感し、活動していく仲間が必要不可欠です。会員拡大を行わなくては、組織は衰退し、いずれ消滅してしまいます。運動を幅広くかつ効果的に、そして地域を巻き込んで運動を行うには、やはり人財が必要になります。組織がより一層繁栄するためには、会員拡大は必須であり、それをメンバー全員が理解し、意識しなくてはなりません。会員拡大を成功させるためには、様々な繋がりからメンバー以外の方との意見交換や交流・懇親も大切です。

そして、個々の会員拡大への意識は大切ですが、個に頼るだけではなく、会全体で会員拡大を行う仕組みが必要だと感じております。このような仕組みを確立しなければ会員拡大は属人的になってしまい、会員が毎年純増し、会員の成長もさることながら会の継続的な成長も見込めないと考えます。

そして、ただ新入会員を入会させただけでは退会者を増やしてしまうと考えます。外部の繋がりも大切ですが、メンバー同士での繋がりや交流を行うことで、仲間意識も芽生え、次第に青年会議所運動に参加し、活動への理解が深まり、青年会議所に根付くと考えます。メンバー一人ひとりを大切に仲間づくりを推進してまいります。青年会議所には様々な出会いや学びの場がたくさんあります。その機会に自ら手を伸ばし、掴むことで経験となり、自身の力となっていきます。

その、青年会議所の学びの機会の1つとして、公益社団法人日本青年会議所が主催する、サマーコンファレンスを活かします。2025年度の日本JCの運動の成果を学ぶことで、地域の課題や問題を解決するための知識やアイデアを享受することにより、メンバーの個々の資質の向上に繋がり、浦安

青年会議所の運動の質を高めていくものだと確信しております。

出合いがあれば別れがあり、それが 40 歳の卒業です。これまで浦安青年会議所で地域のために邁進されてきた卒業生に向けて、共に活動できた喜びと感謝を示す場が必要だと思っております。

地域のために活動し、得た学びや経験、思い出などを共有することで、現役メンバーの青年会議所運動の意識を高め、一生涯の仲間として門出を祝します。

品格ある青年経済人が集まり、魅力的な人財が多く所属する団体として認知が広まり、次第に新しい仲間が増え、共に同じ志をもって運動を展開することで、地域からも必要とされ続け、魅力ある組織へと進化してまいります。40 歳を迎え卒業される先輩を祝す場も、現役メンバーにとっては出会った縁と学びを深める機会とします。

6.おわりに

創立 45 周年を迎えるにあたり、渾沌とした不安な時代だからこそ、我々青年がかつてない情熱を持ち光輝く未来を切り拓くという強い信念のもと運動を展開していかなくてはなりません。未来をより良くしていくために私たち浦安青年会議所があります。次の 50 周年に向けて、さらに浦安青年会議所が魅力ある組織、そして運動を行うにあたり羅針盤となる 5 か年計画を策定します。まちづくり、ひとづくり、組織づくり、様々な観点から議論し、浦安青年会議所は今後どのような組織で在る必要があるのか、目指していかなくてはならないのかを明確にし、足並みを揃え力強く歩んでまいります。

我々のこの運動は、即効性があるものではありません。20 年後、30 年後、50 年後の人々に、この浦安に生まれたよかった、浦安に住んでよかった、浦安に住み続けたいと誰からも思ってもらえるような礎を浦安青年会議所が築いていくと、強い信念をもって 2025 年度運動を展開いたします。

【事業計画】

- 1.浦安らしさを発信する第 58 回千葉ブロック大会・浦安大会の主管
- 2.郷土愛のその先を目指した 45 周年記念事業の開催
- 3.45 周年の感謝を示す創立 45 周年記念式典の開催
- 4.新年式典の開催
- 5.主権者意識向上を目的とした事業の開催
- 6.総会の開催
- 7.青年経済人が集う拡大事業の開催
- 8.第 37 回わんぱく相撲浦安場所の開催
- 9.サマーコンファレンス 2025 を活用した例会の開催
- 10.卒業式の開催
- 11.20 名会員拡大の必達
- 12.50 周年に向けた 5 か年計画の策定
- 13.友好団体との連携・協力
- 14.公益社団法人日本青年会議所への積極的な支援・協力

15.公益社団法人日本青年会議所、関東地区協議会、千葉ブロック協議会の諸大会・諸会議・諸事業の積極的な支援・協力